クラブ会長・クラブ幹事殿

　あっという間に猛暑の日々が過ぎ、爽やかな菊薫候となりました。
会長・幹事殿にはお変わりありませんか。いつも地区運営にご協力をいただきありがとうございます。私も、72クラブのうち63クラブの公式訪問を無事に終えることが出来ました。各クラブ会長様には心のこもった歓迎を賜り、クラブ会員の皆様との出会に、ロータリーの功徳を身にしみて感謝しております。

　さて10月は職業奉仕月間であります。ロータリーの職業奉仕概念はどのようにして生まれたのでしょうか、その背景を振り返ってみましょう。日本のロータリーの始祖は、米山梅吉氏であります。三男の米山桂三さんが慶応大学の教授になり、「父米山梅吉を語る」という手記の中でロータリー運動について次のように語っています。『ロータリー運動とは、社会・経済史的に見ると、資本主義の発達という歴史的必然と、資本主義の欠陥を救おうとする人物の出現という歴史的偶然との交錯したところに生まれた運動である』　1880年頃から、20世紀初頭にかけてアメリカにおける資本主義は、独占体制の段階に入りました。そうなると資本主義の欠陥がいたるところに姿を現しました。そのような時代にあっては、健全な中流階級の中から社会改良思想が生まれてくるのは、自然のなりゆきで、ポールハリスが、三人の友人と語らって何か世の中のためになるような集まりを作ろうじゃないかと、ロータリークラブを作った1905年が、ちょうど初期資本主義が最盛期を迎えた年でありました。資本家が政治・経済の主導権を握り、私利私欲中心の拝金主義が横行し、貧富の差の拡大により、スラム街がいたるところに姿を現し、シカゴは伝染病や犯罪の温床となり商業倫理の欠如の上にいたずらな繁栄が築かれておりました。シカゴはまさに弱肉強食の街でした。このようなときには、中流階級の中から様々な社会改良運動が起こりました。まずアル・カポネが暗躍していた当時の風潮を反映して禁酒同盟や、反酒場連盟が結成されたり、貧民に無関心であった教会も 社会福音運動を展開し始めました。また救世軍活動や、YMCA、YWCAその他多くの慈善団体が現れました。ロータリーは特定の事業を標榜する奉仕団体ではなく、奉仕を志す人の集まりです。20世紀初頭の混沌としたシカゴで、ロータリーが目指した社会改良の処方箋とは、社会の基である個人の心を強化することだったのです。ロータリーは、人間の徳性の向上が人類社会発展の基本であることを信じて疑わないのです。

　昨今、偽装・偽造・隠蔽等々恐ろしい事件により、崩壊した企業・組織・専門職がたくさんあります。ロータリの高潔性・倫理性により、これら偽装・偽造・隠蔽を排除する人間の徳性向上が今一番求められてるのではないでしょうか?

　10月は米山月間でもあります。
米山記念奨学事業をご理解いただき皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

国際ロータリー第2640地区
ガバナー　米田眞理子

2010年10月1日